

『野呂有子の研究サイト—ジョン・ミルトンを中心に—』へのご招待

英文学科教授 野呂有子

私は半世紀近く、17世紀イギリスの叙事詩人ジョン・ミルトンの研究をしてきました。その研究成果を広く公開するウェブサイト『野呂有子の研究サイト（ジョン・ミルトンを中心に）〔Yuko Kanakubo Noro's Web site with special emphasis on John Milton〕』（<http://www.milton-noro-lewis.com/index.html>）の立ち上げについて報告させていただきます。

ウェブサイトでは野呂が院生時代から書きためた論文の一部を公開しています。内容はつたないものもありますが、あえて公開に踏み切ったのは、少しでも、学生や院生のみなさんが論文を執筆する際に参考になるようにと願ったことです。

さいきんでは、みなさんが論文を執筆しなくてはいけない場面が数多くあります。みなさんが優れた論文を目にする機会があっても、修行時代の論文を目にする機会は限られているのではないのでしょうか。それがインターネットで学生のみなさんが手軽に目にするのであれば、卒業論文等を執筆する際にも少しはお役に立てるのではないかと、思ったからです。ただし、コピーもダウンロードもできません。PCでしっかりお読みください。必要だと思う個所があったらご自分の手でメモなどおねがいします。ご自分の手で書くことによって内容がしっかりと頭に入るのだということをお忘れなく。出典も掲載してありますので、もしご自分のレポートなどで言及するときには、そういった書誌情報もしっかりと書いてください。書き方は野呂の論文の注を参考にしてください。

ほかにはC・S・ルイス著『ナルニア国年代記』についての論文、『秘密の花園』や『トムは真夜中の庭で』についての論文も掲載しています。児童文学で論文を書こうかな、と考えている人はいちど、中身を見てください。

もう一つ、ウェブサイトの中心となるのは、「ミルトン著『イングランド国民のための第一弁護論』電子版ラテン語英語日本語対照コンコーダンス」です。詳細は当該サイトの説明文を読んでみてください。共同作成者は、上滝圭介さん（埼玉医科大学講師）、野村宗央さん（松山大学特任准教授）、桶田由衣さん（英文学科助手）、金子千香さん（博士後期課程三年）、小川佳奈さん（博士後期課程二年）の5名です（職位・在学年は2018年3月時点）。

言論・出版の自由を『アレオパジテイカ』という英語の論文で主張したミルトンは、また、当時の国際共通語だったラテン語をもちいて、広くヨーロッパの人々に、オリバー・クロムウェルを中心としたイングランド共和政の弁護を行いました。いわゆる「王権神授説」が迷信であること、国民こそが政治の主権を持つこと、国民により選出された代表が構成する議会こそが政治の主体となることを堂々と主張したのです。いまから350年近くも前のことです。日本

はまだ徳川時代で「お家と主君こそが大事」とされていました。日本でミルトンの考え方が採用されたのは、ようやく1945年以降のことです。それからまだ70年ほどしかたっていないから、みなさん、ごいっしょに日本の議会制民主主義を守り育てていきましょう。

ところでミルトンがこの文書『イングランド国民のための弁護論』で主張した内容は、イギリス革命（ピューリタン革命ともいいます）の理論的支柱となりました。さらに、この文書により、ヨーロッパの人々の民主主義的精神が覚醒されました。こうした議会制民主主義の精神は、のちのイギリスの名誉革命、そして、フランス革命やアメリカ独立戦争の理論的支柱としての役割を果たすにいたったのです。ミルトンの使用したラテン語の一端とともに、民主主義的精神を宿したラテン語文の一部を公開することは、改めて民主主義の原点が問い直される現代にあって決して意味のないことではない、と私は考えています。

さらに、ここには電子ブック、*Pro Populo Anglicano Defensio 1651/1658*（『イングランド国民のための弁護論』1651年版と1658年版の比較対照版）も掲載されています。これは野呂がほぼ12年の歳月をかけて構想し、作成したものです。共同研究者は、さきほどご紹介した5名の方々です。

ミルトンは『イングランド国民のための弁護論』を1651年に出したのち、1658年、王政復古前夜に加筆修正して再度出版しています。本電子書籍では、1651年版と1658年版の主要な差異をチェックして、それを明示してあります。これを電子ブックで公開することにより、国内ばかりか国外のミルトン研究者にも広く高度な情報を提供することになりました。そのため、国内および国際的なミルトン研究の発展に大いに貢献すると期待できます。

ところで、本電子ブックは1651年版の原本として、2017年3月に日本大学に導入されたEEBO (*Early English Books Online*) を使用し、ここからダウンロードした原資料を原本として作成されています。*Pro Populo Anglicano Defensio* は、1932年にコロンビア大学より出版されていますが、これは1658年版を底本としています。(*The Works of John Milton*, Vol. VII, ed. Frank Allen Patterson [New York: Columbia University Press, 1932, 1951])。

また1991年には、英語訳による1651年版と1658年版の比較参照版がケンブリッジ大学より出版されています。(*John Milton: Political Writings*, ed. Martin Dzelzainis, trans. Claire Gruzelier [Cambridge, New York, Port Chester, Melbourne, Sydney: Cambridge University Press, 1991])。けれども、これは英語による翻訳書であるため、原典のみの持つ、ミルトンの口調、息ぶきなどは伝わるべくもありません。

一方で、本電子書籍 *Pro Populo Anglicano Defensio 1651/1658* は、原典のみの持つ作者の生の筆致を捉えることに成功しています。さらに1658年には、すでに失明していたミルトンが、どれほど念入りに、初版のミスプリントや言葉足らずと判断した部分を加筆修正したかが明らかとなるのです。

本来、原典校訂は本国人（つまりイギリス人、あるいはアメリカ人）の研究者にのみ可能であり、外国人研究者（ましてや日本人）には不可能であるという通説がありました。けれど、本プロジェクトの研究成果は通説をくつがえすものであり、日本人ミルトン研究者の *Pro Populo Anglicano Defensio* 研究成果としては史上初の快挙となるものです。

EEBO (Early English Books Online) については以前、「英文学会通信」第 107 号でご紹介しました。*EEBO* は日本大学施設内の PC からならどこからでもアクセスが可能です。日本にいながら、そして日本人研究者であっても、発想と構想がしっかりしていれば、さまざまな研究ができるのです。この『英文学会通信』で博士論文についての文章を書いている金子千香さんも *EEBO* を駆使して論文を完成させました。院生のみなさんや若手研究者のみなさんもぜひともチャレンジしてみてください。もちろん、学部生の方も大歓迎です。